

外為マンスリーレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/04/01

米利上げ開始観測に対する警戒感

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>		RBAの利下げ観測が浮上 予想レンジ: 88.200 ~ 94.600 円	2 - 3
<a href="#">NZドル/円</a>		NZよりも米国が中心 予想レンジ: 86.300 ~ 92.000 円	4 - 5
<a href="#">ランド/円</a>		経常赤字がアキレス腱 予想レンジ: 9.300 ~ 10.400 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

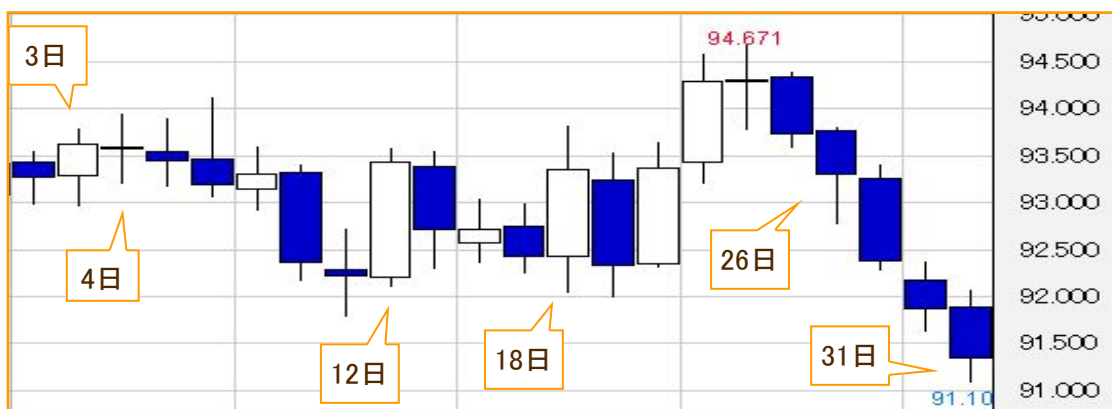
Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 豪ドル/円 3月の推移

AUD/JPY

3月の豪ドル/円相場は91.108～94.671円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.2%の下落(豪ドル安・円高)となった。

豪準備銀行(RBA)が政策金利の据え置きを発表するも、利下げ観測の払しょくには至らず、上値の重い展開が続いた。米連邦公開市場委員会(FOMC)後に全般的にドル売りが強まった影響を受け、豪ドル/米ドルの上昇に連れて94.671円まで値を上げたが、買いの勢いが一服すると反落。31日に資源価格の下落などを背景に4月RBA理事会での利下げ観測が高まると、2月5日以来となる91.108円の安値を付けた。



## 四本値

OPEN	93.445
HIGH	94.671
LOW	91.108
CLOSE	91.361

3日	利下げ観測が高まる中、RBAが政策金利の据え置きを発表。予想外の結果を受けて豪ドル買いが優勢となり、豪ドル/円が93.70円台まで上昇した。声明文で「前回の金融緩和を踏まえ、当面政策金利を据え置く事が適切と判断」との見方を示し、早期利下げ観測がやや後退した事も上昇を後押しした模様である。
4日	豪10-12月期国内総生産(GDP)は前年比が予想通り+2.5%となるも、前期比が予想(+0.6%)を下回る+0.5%となり、豪ドル/円は93.220円まで下落。ただ、その後は前期比の前回分が上方修正(+0.3%→+0.4%)された事を好感して反発した。
12日	豪2月雇用統計は、失業率が6.3%、新規雇用者数変化は1.56万人増(予想:6.4%、1.50万人増)となった。これを受けて豪ドル/円は92.590円まで上昇するも、労働参加率が64.6%と予想(64.8%)を下回った事が重石となって伸び悩んだ。ただ、その後は米2月小売売上の弱い結果を受けて米利上げ開始がやや遅れるとの観測が浮上し、NYダウ平均が堅調に推移すると、93.581円まで一段高となった。
18日	市場が予想していたよりもハト派的な米FOMC声明やイエレンFRB議長の会見が伝わると、それまで買われた米ドルが売り優勢となり、豪ドル/米ドル相場で豪ドル買いが強まった。これを受け、豪ドル/円は93.826円まで連れて上昇した。NYダウ平均が急騰して18000ドルを回復した事も上昇を後押しした。
26日	サウジアラビアが隣国イエメンのシーア派系フーシ派武装勢力に対し、軍事介入を開始した事を受けた地政学リスクの高まりが意識され、日経平均が大幅に下落。これを嫌気して豪ドル/円は売り優勢となり、その後92.790円まで下落した。
31日	原油や鉄鉱石価格の下落を背景にRBAの利下げ観測が高まり、豪ドル/円は軟調に推移。欧州株安も重石となり、2月5日以来となる91.108円の安値を付けた。

AUD/JPY

## 日経平均

OPEN	18869.40
HIGH	19778.60
LOW	18577.06
CLOSE	19206.99

## NYダウ平均

OPEN	18134.05
HIGH	18288.63
LOW	17579.27
CLOSE	17776.12

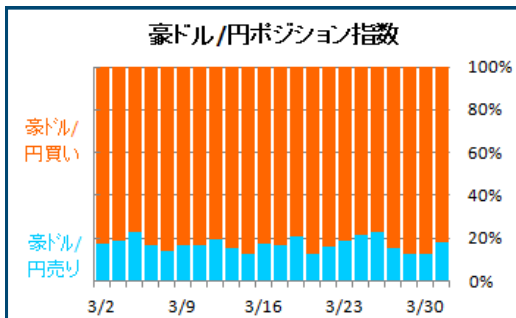
## 上海総合指数

OPEN	3332.721
HIGH	3835.567
LOW	3198.370
CLOSE	3747.899

## 豪10年債利回

OPEN	2.4750%
HIGH	2.7810%
LOW	2.3040%
CLOSE	2.3240%

## 3月のポジション動向



## 4月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米3月雇用統計(3日)
- ・豪2月小売売上高(7日)
- ・RBAキャシュターゲット(7日)
- ・日銀金融政策決定会合  
(7~8日、30日)
- ・中国1-3月期GDP(15日)
- ・豪3月雇用統計(16日)
- ・米3月消費者物価指数(17日)
- ・RBA議事録(21日)
- ・豪1-3月期消費者物価(22日)
- ・中国4月HSBC製造業PMI・速報  
(23日)
- ・米FOMC(28~29日)
- ・主要国株価、国際商品市況

## 4月の見通し

先月の豪ドル/円は、RBAの利下げ観測を背景に下落した。今回はRBA理事会が焦点となろう。今回は市場関係者の間で見方が分かれており、仮に利下げとなれば豪ドル売り材料となろう。ただし、22日の豪1-3月期消費者物価を見極めたいとの声もあり、据え置きも考えられる。その後の動きは声明文が焦点であり、2月の利下げの効果を見極めるべく当面の間政策スタンスを中立とするならば、豪ドル買いの材料となろう。ただし、追加利下げを示唆する事があれば、豪ドル売りが強まる事も考えられる。政策金利と声明文の2段構えで挑みたい。その他、5月のRBA理事会を読む手掛かりとして豪3月雇用統計にも注目である。

また、米利上げ開始時期を読む上で、FOMCにも注目したい。声明の内容が6月利上げを示唆するタカ派的内容であれば、米長期金利の上昇要因である。これを受けて米ドル買いが強まるようだと、豪ドル/米ドルの下げ主導で豪ドル/円相場を下押し可能性が高い。声明を受けて米長期金利と米株価のどちらがより強く反応するかを見極めたい。(川畑)

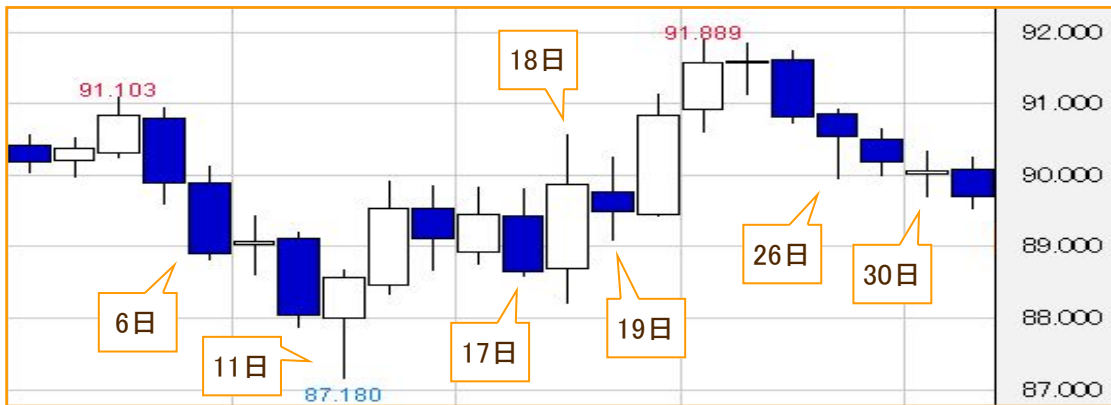
(予想レンジ: 88.200~94.600円)

# NZD / JPY

## NZドル/円 3月の推移

3月のNZドル/円相場は87.180~91.889円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.8%の小幅下落(NZドル安・円高)となった。

米連邦準備制度理事会(FRB)の早期利上げ開始観測を背景にドル買いが強まり、NZドル/米ドルの下げに連れてNZドル/円が下落。その後、米連邦公開市場委員会(FOMC)で早期利上げ開始観測が後退するとNZドル/円は91.889円まで反発するなど、米国の事情に左右されて方向感が定まらなかった。



### 四本値

OPEN	90.425
HIGH	91.889
LOW	87.180
CLOSE	89.716

6日	米2月雇用統計の強い結果を受けて早期利上げ期待が広がる中、米長期金利の大幅上昇を嫌気してNYダウ平均が下げ幅を拡大すると、NZドル/円は88.80円台まで下落した。
11日	原油相場の急落をきっかけに資源国通貨売りの流れとなり、NZドル/円は87.180円まで下落。しかしその後、RBNZが政策金利の据え置き(3.50%)を発表し、声明文で「将来の金利調整が利上げになるか利下げになるかは、今後の経済指標次第」などの見方を示した。また、ウィーラー-RBNZ総裁が会見で「NZは利下げをしているその他の国々とは違う状況にある」との発言した。一部で利下げ観測が浮上していた事や、ハト派的な声明を見込んでいた向きもあったため、これらを受けて88.678円まで反発した。
17日	NZ乳業大手フォンテラが実施する乳製品入札において、GDT指数が前回比-8.8%(前回:+1.1%)となった。これを嫌気してNZドル/円は88.60円前後まで下落した。
18日	市場が予想していたよりもハト派的な米FOMC声明やイエレンFRB議長の会見が伝わると、それまで買われた米ドルが売り優勢となり、NZドル/米ドル相場でNZドル買いが強まった。これを受け、NZドル/円は90.564円まで連れて上昇した。NYダウ平均が急騰して18000ドルを回復した事も上昇を後押しした。
19日	NZ10-12月期国内総生産(GDP)は前期比が事前予想通り+0.8%となるも、前年比が+3.5%と予想(+3.4%)を上回る伸びとなった。ただ、前期比の前回分が下方修正(+1.0%→+0.9%)となるなど、強弱入り混じる内容であったため、NZドル/円の反応は限定的であった。
26日	サウジアラビアが隣国イエメンのシーア派系フーシ派武装勢力に対し、軍事介入を開始した事を受けた地政学リスクの高まりが意識され、日経平均が大幅に下落。これを嫌気してNZドル/円は売り優勢となり、その後89.957円まで下落した。
30日	パプアニューギニアでM7.5の地震が発生した事を受けてオセアニア通貨売りの流れとなり、NZドル/円は89.70円台まで下落した。



## NZD/JPY

## 日経平均

OPEN	18869.40
HIGH	19778.60
LOW	18577.06
CLOSE	19206.99

## NYダウ平均

OPEN	18134.05
HIGH	18288.63
LOW	17579.27
CLOSE	17776.12

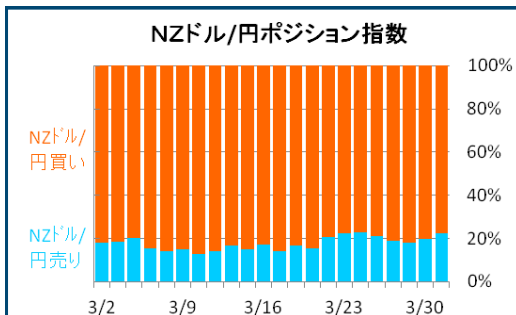
## 上海総合指数

OPEN	3332.721
HIGH	3835.567
LOW	3198.370
CLOSE	3747.899

## NZ10年債利回

OPEN	3.2930%
HIGH	3.4490%
LOW	3.1810%
CLOSE	3.2540%

## 3月のポジション動向



## 4月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・NZ乳業大手フォンテラ入札 (1日、15日)
- ・NZ1-3月期消費者物価(20日)
- ・米3月雇用統計(3日)
- ・中国4月HSBC製造業PMI・速報 (23日)
- ・日銀金融政策決定会合 (7~8日、30日)
- ・米FOMC(28~29日)
- ・中国1-3月期GDP(15日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート (30日)
- ・米3月消費者物価指数(17日)
- ・主要国株価

## 4月の見通し

先月に続き、米FOMCがNZドル/円相場における最大の注目材料となろう。先月は米利上げ前倒し期待が高まるとNZドル/円は下落し、反対に後退すると上昇した。今回も声明が利上げ前倒し観測を高める内容となればNZドル/円の重石となる事が予想される反面、利上げ開始時期の後ずれを印象付ける内容となればNZドルの上昇要因となる事も考えられる。米FOMCを読む手掛かりとして、米3月の雇用統計や消費者物価指数にも注目したい。

NZではRBNZの金融政策発表が予定されており、現時点での市場予想は政策金利の据え置きが多い。ただ、一部で低インフレを理由とした利下げ観測もある。大方の予想通り政策金利が据え置かれるようならば、市場の関心は声明文での今後の金利見通しに集まりそうだ。RBNZの金融政策を読む上で、1日と15日に行われるNZ乳業大手フォンテラの乳製品入札や、NZ1-3月期消費者物価にも注目したい。(川畑)

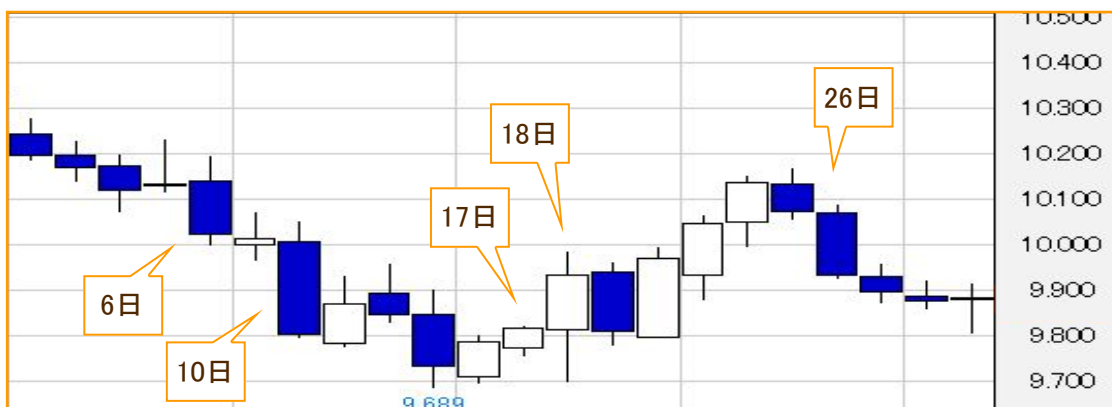
(予想レンジ: 86.300~92.000円)

## ランド/円 3月の推移

# ZAR/JPY

3月のランド/円相場は9.689～10.277円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.6%の下落(ランド安・円高)となった。

米連邦準備制度理事会(FRB)の早期利上げ開始観測を背景にドル買いが強まり、ドル/ランド相場が2002年1月以来となる12.50ランド台に上昇(＝ランド安)すると、ランド/円は昨年10月以来となる9.689円まで下落。その後は米連邦公開市場委員会(FOMC)での早期利上げ開始観測がやや後退するとランド/円は反発したが戻りは鈍く、その後は9.809円まで再び下げた。南アが経常赤字国である事が意識された他、資源価格の下落が上値を重くしたと考えられる。



### 四本値

OPEN	10.246
HIGH	10.277
LOW	9.689
CLOSE	9.885

6日	米2月雇用統計を受けて早期利上げ期待が広がる中、米長期金利の大幅上昇を嫌気してNYダウ平均が下げ幅を拡大すると、ランド/円は10.00円台まで下落した。
10日	米早期利上げ開始観測を背景にドル高が進み、ドル/ランド相場でドル買いが強まった。同時に株安が進んでNYダウ平均が大幅に下落した事も重なり、ランド/円は売り優勢となった。
17日	南ア10-12月期経常収支が1980億ランドの赤字(予想:2160億ランドの赤字)となった事を好感して、ランド/円は9.80円台までやや値を上げた。
18日	南ア2月消費者物価が前年比+3.9%と予想(+3.8%)を上回る伸びを示したが反応は限定的。その後、市場が予想していたよりもハト派的な米FOMC声明やイエレンFRB議長の会見が伝わると、それまで買われたドルが売り優勢となり、ドル/ランド相場でドル売り・ランド買いが強まった。これを受け、ランド/円は9.985円まで上昇した。NYダウ平均が急騰して18000ドルを回復した事も上昇を後押しした。
26日	南ア準備銀行(SARB)は市場の予想通り、政策金利の据え置き(5.75%)を決定。声明で「金融政策委員会(MPC)が物価上昇への警戒姿勢を続け、インフレ目標の枠組みを守るために行動する事をためらわない」など物価上昇への警戒感が示され、ランド/円はやや上昇。しかし、米アトランタ連銀のロックハート総裁がタカ派的発言を行った事や米週次新規失業保険申請件数が予想より強い結果となった事から全般的にドル買いの流れとなり、ドル/ランド相場でランド売りが強まった影響を受けて9.928円まで反落した。

## 日 経 平 均

OPEN	18869.40
HIGH	19778.60
LOW	18577.06
CLOSE	19206.99

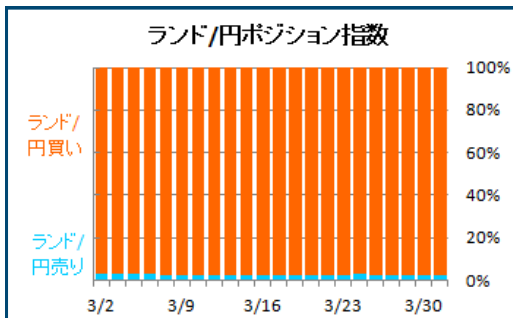
## NYダウ平均

OPEN	18134.05
HIGH	18288.63
LOW	17579.27
CLOSE	17776.12

## N Y 金

OPEN	1213.80
HIGH	1223.00
LOW	1141.60
CLOSE	1183.10

## 3月のポジション動向



## 4月の注目ポイント

- ・米3月雇用統計(3日)
- ・日銀金融政策決定会合 (7~8日、30日)
- ・中国1-3月期GDP(15日)
- ・米3月消費者物価指数(17日)
- ・南ア3月消費者物価指数(22日)
- ・中国4月HSBC製造業PMI・速報 (23日)
- ・米FOMC(28~29日)
- ・南ア3月貿易収支(30日)
- ・主要国株価、国際商品市況

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

## 4月の見通し

今月、米国で連邦公開市場委員会(FOMC)が開催される。市場の関心は米利上げ開始時期に集まっており、利上げ前倒し観測が高まる場面では、新興国からの資金流出懸念から新興国通貨全般に売り圧力が掛かる事が予想される。その中でも南アは経常赤字国であり、南アランド売り圧力が一段と強まる公算である。仮に利上げ後ずれを示唆する声明が伝わったとしても、年内の利上げ開始が揺らぐ可能性は小さいため、ドル売りの動きを受けたランド買い戻しの動きは一時的となる。米FOMCを読む手掛かりとして、米3月雇用統計や米3月消費者物価指数にも注目したい。

テクニカル面では、ランド/円は昨年12月後半からレンジ(概ね10.00円前後~10.40円)内での推移が続くも、先月レンジを下抜けると9.689円まで下落。その後レンジ内に回帰するも一時的となるなど、相場は下値を試す流れに移った可能性がある。先月13日安値(9.689円)付近で下げ止まらないようだ、昨年10月に付けた直近安値(9.427円)に向けた一段安もあるだろう。(川畑)

(予想レンジ:9.300~10.400円)